

セントレアグループ中期経営戦略

2010～2014年度

2010年3月

中部国際空港株式会社

centrair

セントレアグループ中期経営戦略

2010～2014年度

・中期経営戦略の基本的な考え方

航空需要は、中期的にはアジア圏内を中心に引き続き拡大すると予想されます。セントレアの需要の核となる中部圏では、航空宇宙、ナノテクなど次世代産業による多角化を目指しつつ、観光分野で動きが活発になるなど、旅客・貨物とも十分なポテンシャルを有するとみられ、地域の発展を支える公共インフラとして空港の重要性が更に高まっていくと考えられます。

こうした中、航空輸送の低コスト化、小型機によるポイント・トゥ・ポイントの路線ネットワーク構築が進む一方、国内では、首都圏以外の路線ネットワークの再編・整理について議論が進むとみられます。空港分野では、空港間の競争が激化することから、地域のサポートを得ていかに空港を維持発展させていくかが全国的に問われる、空港選択の時代に突入するとみられます。

セントレアは、民間企業として空港運営にノウハウを有すること、地域の厚いご支援を頂いていること、Out Of Box*の企業風土を持つこと、空港の「品質」に妥協を許さず改善を重ねてきたことなどの強みを武器に、これまで以上にチャレンジ精神を発揮し、自らの力で未来を切り拓きます。

そのためにセントレアは、地域一丸となって中部圏の航空需要のポテンシャルをしっかりと取り込みます。さらに、国際拠点空港として規模がコンパクトであること、日本の中心に位置すること、内陸乗継の利便さなどの長所を生かし、これからの激しい環境変化に柔軟に対応していきます。

また、空港選択の時代では、数ある空港から選ばれるため、お客様・航空会社・地域などの多様なニーズにお応えする施設や運用を整えることで、低コストで利便性の高い空港サービスの提供に努め、空港の利用の拡大を図る必要があります。そのため、航空系収入の増大を目指すのはもとより、商業や不動産事業、空港関連事業などを戦略的に展開することでグループ全体の収益を多様化するとともに、空港全体で高い利便性を実現するなど、セントレアがこれまで展開してきたビジネスモデルに一層磨きをかけていきます。

・セントレアの目指す姿

セントレアは、お客様に空港を信頼してご利用いただくため、安全・安心の飽くなき追求を空港経営の絶対的な基盤とした上で、4つの目指すべき姿を掲げます。

* Out Of Box : 「常識への挑戦」「常識破りの」の意。

1. 魅力ある空港

地域の熱い思いから誕生したセントレアは、地域のお客様、旅行されるお客様に愛され親しまれる空港であり続けます。そのために、利便性が高く、感動いただけるサービスを提供する観光・ビジネスの拠点、地域・世界の情報を発信する拠点となることで、魅力のある空港を目指します。

2. 競争力ある空港

セントレアは「自らが考え実践する空港」として、マーケティングに知恵と工夫を凝らしつつ、地域とともに需要の創造のため行動し、中部圏の豊かなポテンシャルを引き出します。そして、空港選択の時代を生き抜くため、効率的でより多くの路線ネットワークを構築し、競争力の高い空港を目指します。

3. 先進的な空港

ますますスピード感を増していく時代の動きを敏感に捉え、既成の概念にとらわれない一歩先を行く空港の姿に挑戦します。そのために、環境経営の推進、先端技術の導入、新しい空港のあり方の提案・発信などを通じ、ビジネスの進化に積極的に取り組み、先進的な空港を目指します。

4. 健全で活力ある空港

チャレンジ精神にあふれ、常に成長を目指す企業風土と人材を育むとともに、民間企業が運営する空港の模範となるべく、経営効率を絶えず追求し、知恵を結集して機動的に行動することで、健全で活力ある空港を目指します。

重要施策

【安全・安心の確保】

安全・安心の確保は全てに優先するとの考えのもと、事故やバードストライクの撲滅、空港施設やシステムの監視・保守などの努力を日々着実に重ねる中で、公的なガイドラインや規制の遵守にとどまらない、プラスアルファの取組に重点的に取り組むことで、「絶対安全・安心」を目指します。これにより、お客様にいつでも安心してご利用いただける空港を実現します。

1. 魅力ある空港を目指して

【CS世界No.1空港の実現】

セントレアの価値を形づくる最も大きな要素は「人」であるとの考え方のもと、おもてなしの心を持って、感動いただけるサービスを提供するために何をすべきかを常に問い、かつ実践することで、国内・海外のあらゆるお客様に気持ちよくご利用いただける、CS世界No.1空港を実現します。

【施設・サービスの充実】

空港内事業者と一体となり、セントレアを国内・海外のあらゆるお客様に分かりやすく快適

に旅行いただける拠点、地域の観光・文化・技術の発信拠点として確立することで、お客様や地域に愛されるエアシティというセントレア独自の空港像を発展させます。その際、既存の施設を有効に活用しつつ、お客様目線で設備面の見直し、先端技術の導入などを進めます。

2. 競争力ある空港を目指して

【路線ネットワークの充実】

中長距離路線や国内路線の確保・充実を図る一方、中国などからの訪日外国人旅行のお客様を積極的に受け入れ、また、LCCをはじめ多様な事業モデルを持つ航空会社を誘致することで、セントレアの長所である内陸乗継の利便性を最大限に生かし、アジアを中心とした小型機・多頻度の航空ネットワークを構築します。

【旅客需要の拡大】

路線誘致や需要開拓のため、地域の皆様とセントレアの全従業員が一丸となった「オール中部」体制を確立し、セントレア独自の空港マーケティング機能を強化します。それにより、路線ネットワークを構築し、新たに創造された需要の安定化・拡大に継続的に取り組み、更なる路線ネットワークの拡大につなげる、という成長のスパイラルを定着化させます。

【貨物需要の拡大】

ものづくりの一大拠点である中部圏の空港として、成田空港に偏在した物流構造から転換し、地域の空港であるセントレアの活用を促すことで、物流コストやリードタイムの縮減、環境負荷の低減を目指します。

3. 先進的な空港を目指して

【環境経営の推進】

環境先進型空港として開港したセントレアは、環境を重視する時代の流れを先取りすべき使命を有しています。空港運営に環境への取組を織り込んだ環境経営を推進することで、環境リスクの低減と企業価値(ブランド)の向上を図ります。

【先端技術の導入】

空港の利便性向上、運営効率化のため、先端技術を先進事例として積極的に導入し、お客様に簡単・便利にかつ楽しく旅行いただける空港、セントレアにとって簡潔・低コストで維持できる空港の実現を目指します。

【新たな空港のあり方の模索】

低コストで便利な国内外の他空港との競争に打ち勝つため、空港利用料金の低廉化や空港運営に相乗効果を有する新規事業への領域拡大を目指すことで、お客様や航空会社にとって使いやすく、かつ収益を着実に確保できる空港運営の新たなビジネスのあり方を模索します。

4. 健全で活力ある空港を目指して

【人材の育成・企業風土の成熟】

セントレアブランドのもつ価値の向上を進める主体は「人材」であり、その育成は経営の最重要課題の1つであるという考えのもと、強い使命感と高い能力を兼ね備え、相互に高めあいながら自律的に行動する、次世代のセントレアを担うプロフェッショナルを育成します。そして、グループ全体が真に総合力を発揮していくための基盤を固めます。

【財務体質の強化】

空港をめぐる環境変化に柔軟に対応できる筋肉質な財務体質の確立を目指し、グループ全体の収益力を高めるとともに、経営分析力を向上させます。これにより、当期純利益の黒字を定着させます。

第二滑走路の整備推進

中部圏のポテンシャルを最大限に活かし、今後の地域の発展、国際交流の活発化を促進するため、セントレアに第二滑走路が必要だという認識のもと、地域の自治体・経済界において、第二滑走路の整備推進のための検討が進められています。

一方、空港運営の観点からは、セントレアが現在、滑走路1本であることにより、メンテナンスによる深夜の滑走路閉鎖など、運用上の諸課題を抱えています。これらを解決し、お客様に安心して空港をご利用いただくため、できるだけ早く第二滑走路を整備することが、空港管理者としても必要だと考えており、地域が進める検討に積極的に協力していきます。

同時に、民間企業による公共インフラの整備・運営のあり方として、滑走路の整備を行っても、将来の空港経営が安定的である必要があります。このような観点から、事業スキームのあり方についても地域の検討において議論を深め、建設に必要な準備が完了することを目指します。

業績目標

セントレアグループは、以上に掲げた施策を着実に実施することで、過去に達成した旅客数実績1,200万人と国際貨物取扱量24万トンの到達**を目指します。さらに、安定的に500億円以上の全社収入を確保するとともに、厳しい経営環境下でも確実に黒字を達成できるコスト構造を確立することで、本中期経営戦略期間中に累損解消を達成し、将来の飛躍を支える経営基盤を固めます。

** 旅客数実績は、万博の影響(国内53万人、国内18万人)を除くと、2006年度の1,199万人が最高。国際貨物取扱量は、2006年度の23.9万トンが最高。